

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度採択プログラム事後評価  
プログラム担当者アンケート調査(案)

- この調査は、博士課程教育リーディングプログラム(※)の平成24年度採択プログラムの事後評価の一環として、各大学の御協力により、文部科学省の指導の下で独立行政法人日本学術振興会が XXXX 株式会社に委託して実施するものです。
- プログラムを担当しておられる教員の方及び学外から協力いただいている方に御意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省による新たな施策の検討の参考とします。
- 回答内容は全て統計的に処理されるとともに、回答者個人についての情報が他の目的で使われることはありません。また、調査結果については、プログラムの改善に資するため、回答者個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合等の処理を行った上で、当該大学に対して情報提供するほか、集計結果を公表することがあります。

日本学術振興会 個人情報保護規程

[http://www.jsps.go.jp/j-kojinjoho/data/filebo\\_2005/kitei.pdf](http://www.jsps.go.jp/j-kojinjoho/data/filebo_2005/kitei.pdf)

※優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院(リーディング大学院)の形成を推進する事業

- **X月X日(X)まで**に御回答ください。 → <http://XX>
- 本調査に関するお問い合わせ先  
 XXXX 株式会社 担当者:XX・XX  
 Email: XXXX@XXXX.XXXX

### 担当しておられるプログラムと、御自身についてうかがいます

問1 担当の大学・プログラム名について、以下に表示されている内容を確認してください。

IDにより大学名・プログラム名を表示

問2 年齢、性別について選択してください。

年齢	1. 30歳代以下	2. 40歳代	3. 50歳代	4. 60歳代以上
----	--------------	------------	------------	--------------

性別	1 女性	2 男性
----	------	------

問3 プログラムとの関係について選択してください。

プログラムに参加した年 (該当する年度全てを選択)	1. 2012(平成 24)年度	2. 2013(平成 25)年度	3. 2014(平成 26)年度	4. 2015(平成 27)年度	5. 2016(平成 28)年度	6. 2017(平成 29)年度
------------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------

エフォート 申請時調書に記載したもの (1つを選択)	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	7. 6割以上 7割未満	8. 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上	11. 採択された後に プログラム担当者 になった	

エフォート 平成28年度の実績 (1つを選択)	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	7. 6割以上 7割未満	8. 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上		

本プログラムの学生に直接 接する頻度 (1つを選択)	1. 日常的	2. 週に1回 程度	3. 月に1~2回 程度	4. 年に1回~数回	5. 直接には 接しない
----------------------------------	-----------	------------------	--------------------	---------------	--------------------

所属(本務)	1. 当該大学院・参 画研究科・専攻 等(プログラムの 経費により雇用 されている者を 除く)	2. 当該大学院・参 画研究科・専攻 等(プログラムの 経費による雇 用)	3. 当該大学(1、2 以外)	4. 他大学	5. 研究機関	6. 民間企業
	7. 政府・自治体	8. 国際機関	9. その他			



具体的に記入してください。

問4 このプログラムではどのようなことを担当していますか。(あてはまる項目全てを選択してください。)

1	プログラムの企画・運営	7	留学プログラム
2	単独講義	8	学生募集・入学者選抜
3	単独演習	9	就職支援
4	協同講義、演習への参加	10	インターンシップ
5	個別学生の研究指導	11	広報
6	学生のメンター	12	その他



具体的に記入してください。

### プログラムの実施状況等についてうかがいます

問5 このプログラムで以下のことを担当していますか。また、担当している場合、それは有効だと思いますか。(カリキュラムにない場合や今後担当予定の場合は「担当していない」を選択してください。)

	担当状況			有効か			
	よく担当している	担当している	担当していない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導							
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等							
研究室ローテーションの受入れ ※名称は問わない(他研究室に一定期間滞在する等、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。)							
プロジェクト形式による授業や課題							
授業外のサポート(メンター等)							

問6 このプログラムで以下のことは整備されていますか。また、「十分にされている」あるいは「ある程度されている」を選択した場合、それは有効だと思いますか。(カリキュラムにない場合や今後実施予定の場合は「されていない」を選択してください。)

	整備されているか				有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	されて いない	分からない	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではない	有効 ではない
企業や官界等、学外者による指導								
産業界、官界、NPO、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等								
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援								
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生の交流スペース、合同のセミナー等								
外国人、職業人等、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会								
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月未満)								
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月以上)								
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1								
※1 「十分にされている」あるいは「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。								
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月未満)								
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月以上)								
本プログラムの中での留学								
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動 ※2								
※2 「十分にされている」あるいは「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。								

問7 このプログラムは、学生が以下の能力を向上させる上でどの程度有効だと思いますか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない	分からない
高度な専門的知識・研究能力					
高い国際性					
専門以外の分野の幅広い知識					
物事を俯瞰し本質を見抜く力					
自ら課題を発見し解決に挑む力					
独創的な能力					
チームのマネージメント力					
企画立案、関係者との調整、統率する能力					
他者と協働する力					
ディスカッション能力					
プレゼンテーション能力					
語学力					
その他(具体的に: )					

問8 運営・管理の面で以下の点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない	分からない
産業界、官界、NPO等によるプログラムへの参画と就職先に関する情報提供が行われている					
学長のリーダーシップが発揮されている					
コストを意識した運営がなされている					
学内へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている					
学外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている					
事務職員によるプログラム支援の体制が整っている					

問9 以下の点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	分からない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています					
一部の教員に負担が集中している					
プログラム担当者以外の教員からの理解があり、協力的である					
大学の執行部がプログラムの目的を理解し、協力的である					
優秀な学生が多数入学している					
今後優秀な学生をより多く獲得できる					
学生はプログラムの趣旨を良く理解している					
学生にとって将来の進路が明確になっている					
学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関等で活躍する人材を育成する見込みがある					
このプログラムによって、大学院制度の改善への波及効果が生じている					
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある					
これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい					
学生にとって所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている					
このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる(得られそうである)					
このプログラムによって学生自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られる(得られそうである)					
学生が所属研究室において専門的な研究を進め業績を上げられるか懸念がある					
学生の将来の進路に不安がある					

## プログラムの改善のための方策についてうかがいます

問10-1 このプログラムであなたが担当している指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート(紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの)を行っていますか。以下から1つ選択してください。

1	担当する全ての役割等において実施している
2	担当する一部の役割等において実施している
3	実施していない

【1あるいは2を選択した場合】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ具体的に実施した改善内容があれば、以下に記入してください。

--

## 全般的な御意見をうかがいます

問11 このプログラムについて御意見がございましたら御自由に記述してください。

個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。( はい ・ いいえ )

アンケートは以上で終了です。御協力ありがとうございました。